読書でビジネス力をアップする（第32回）

若手に「修業」を課さない上司になるための仕事術

2018.01.11



超ホワイト仕事術
高野孝之 著
クロスメディア・パブリッシング（インプレス）

マネジメントの本です。マネジメントのプロが、現代のマネジャーにマネジメントの方法と考え方を伝えます。生産性とモチベーションの高い職場をつくる方法が分かります。日本の会社は、質の高い労働力を持ちながら、生産性は極めて低い状態にあるといわれています。これはマネジメントが原因であるとし、その改善の方法を具体的に紹介していきます。

具体的には「人に仕事をつける」方法から「仕事に人をつける」ことへの意識改革です。これを可能にする具体的な仕組みのつくり方を解説してくれます。働き方を「ホワイト」にする前提にはじまり、マネジャー自身の働き方、チームをホワイト化する仕組み、チームの効率化の方法、メンバーの意識を変えるコミュニケーションなどです。これらを、52の項目に分けて紹介していきます。いずれも4ページで完結しています。気になったところ、知りたいところから読むことができ、手に取りやすいと思います。

52の項目は、実践が容易なものばかりです。例えば「自ら休みをとる」「判断は報告をすべて聞き終わった後」「優秀なメンバーは3年で卒業させる」などです。気付けば、読破していると思います。

なお、一番の特徴は、論理的で再現性がある点です。だから、誰がやっても結果が出ます。もちろん、合理性一辺倒でなく、日本企業の事情や、良いところ、悪いところも踏まえて書いてあります。ホワイトなマネジメントをめざしながら「部下が育たない」「定着しない」「生産性が上がらない」と悩むマネジャーは少なくないと思います。そういう人たちにこそ、一読をオススメします。

「仕事に人をつける」ことへの意識改革とは？… 続きを読む